

■ 概況

2/8~2/14のNYMEX・WTIは、59.19~61.15ドルの範囲で軟化し推移した。

2月15日は、前日のEIA 週報など米国の供給過剰感等により軟化して始まったが、為替市場のドル安進行で買戻され、サウジのファリハ・エネルギー相の協調減産継続発言もあって、続伸した。3月限の終値は前日比0.74ドル高の61.34ドルだった。

週末16日は、対ユーロのドル安進行、欧米株価回復に伴うリスク選好意欲、連休を控えた持ち高調整の買いなどにより、3日続伸した。前日のマズルーイUAEエネルギー相のサウジとロシアが産油国の長期的な連携の枠組みを検討中である旨の発言も支援材料となった。ただ、ペーカーヒューズ社による米国内石油掘削リグ稼働数798基（前週比7基増加）の発表が上値を抑えた。3月限の終値は前日比0.34ドル高の61.68ドルだった。

連休明け20日は、カナダからのトランスカナダパイプラインが1月の事故後も米国向け送油量を一部制限中との報道、WTI受渡点クッシングの原油在庫の前週比210万バレル減少との報告により、米国の供給過剰感が後退、昨日のマズルーイ発言やドル安進行で4営業日続伸した。3月限の終値は前週末比0.22ドル高の61.90ドルだった。

21日は、同日夕と翌日の米国官民の原油在庫増加・原油増産の予想、対ユーロのドル強含みもあり、5営業日振りに反落した。この日から中心限月に繰り上がった4月限の終値は前日比0.11ドル安の61.68ドルだった。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場（3月渡し）は、前週59.60~62.40ドルの範囲で軟化して推移し

た。2月15日61.80ドル、16日61.40ドル、19日62.00ドル、20日は62.20ドル、21日は61.50ドルで推移した。

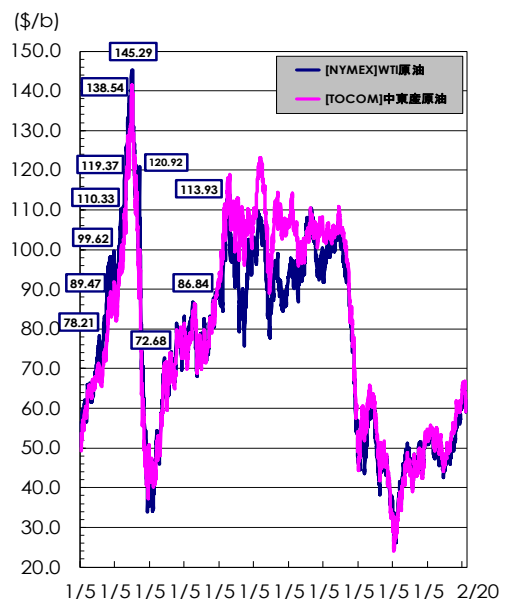
為替は、前週107.85~109.38円の範囲で円高方向に推移した。2月15日106.86円、16日106.29円、19日106.30円、20日106.80円、21日は107.54円で推移した。

財務省が19日発表した貿易統計（速報・旬間ベース）によると、1月下旬の原油輸入平均CIF価格は、45,852円/klとなり、前旬を58円上回った。ドル建てでは65.33ドルで前旬比0.84ドル高。為替レートは1ドル/111.57円。また、同日発表の貿易統計（速報・月間ベース）によると、1月の原油輸入平均CIF価格は、45,648円/klとなり、前月1,486円上回った。ドル建てでは64.53ドルで前旬比2.08ドル高。為替レートは1ドル/112.46円。

主要元売会社の2月第4週に適用する卸価格は、ガソリンが1.0~1.5円の値下げ、軽油が1.0~1.5円の値下げ、灯油が0.5~1.0円の値下げとなった。原油価格は値下がりし、為替レートも円高で、原油調達コストは値下がりした。

そのような中で、2月19日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.2円の値下がり、軽油は同横ばい、灯油は同0.1円の値上がりだった。ガソリンは22週振りの値下がり、灯油は22週連続（18ヶ月ベース）の値上がりだった。この週（2月第3週）の原油コストは値下がりし、元売の卸価格は、ガソリンを2.5円引き下げ、軽油を1.5円引き下げ、灯油を1.0~1.5円引き下げた。

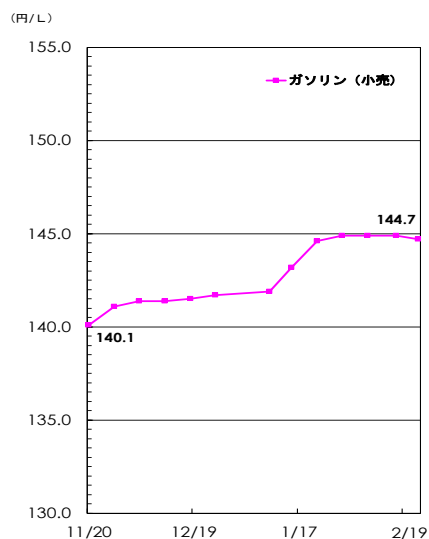
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	2/11 ~ 2/17	3,679 ▲ 37	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	93.9 ▲ 0.9	➡ -
	原油在庫量 (千kl)	2/17	12,395 ▼ -533	▲ -
価格	中東産原油 (TOCOM) (\$/bbl)	2/19	62.21 ▲ 2.81	▲ 7.5
	WTI原油 (NYMEX) (\$/bbl)	2/20	61.90 ▲ 2.61	▲ 7.8
	原油CIF単価 (\$/bbl)	1月下旬	65.33 ▲ 0.84	▲ 11.97
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	45,852 ▲ 58	▲ 6,765
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	111.57 ▲ 1.31	▲ 4.88
	外国為替TTSレート (¥/\$)	2/19	107.30 ▲ 2.43	▲ 6.58



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	2/11 ~ 2/17	928 ▼ -63	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	929 ▼ -11	▲ -	
	輸出	"	85 ▲ 26	▼ -	
	在庫	2/17	1,636 ▼ -86	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	2/13 ~ 2/19	59.3 ▼ -1.8	▲ 11.4	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	2/13 ~ 2/19	55.3 ▼ -2.4	▲ 4.8
		(TOCOM/中部)	2/19	56.5 ▼ -0.4	▲ 6.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	2/19	144.7 ▼ -0.2	▲ 14.1	

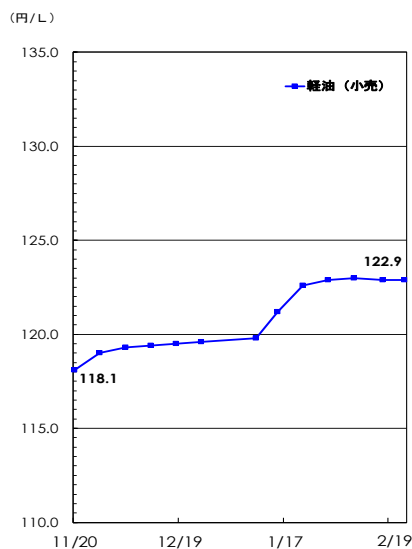
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

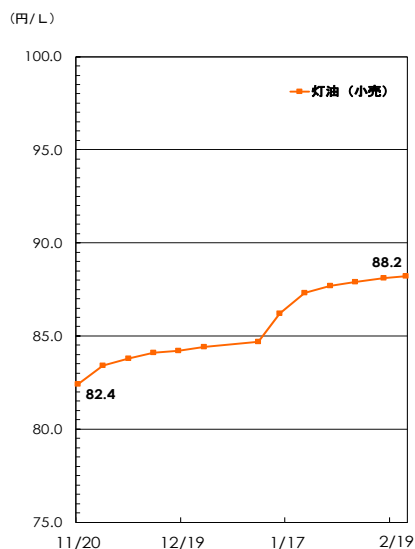
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	2/11 ~ 2/17	786 ▲ 36	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	660 ▲ 26	▲ -	
	輸出	"	203 ▼ -60	▼ -	
	在庫	2/17	1,241 ▼ -76	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	2/13 ~ 2/19	60.7 ▼ -1.2	▲ 12.7	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	2/13 ~ 2/19	60.0 ➡ 0.0	▲ 14.0
		(TOCOM/中部)	2/19	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	2/19	122.9 ➡ 0.0	▲ 12.8	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	2/11 ~ 2/17	538 ▲ 75	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	535 ▼ -86	▼ -	
	輸出	"	25 ▲ 25	▲ -	
	在庫	2/17	1,254 ▼ -21	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	2/13 ~ 2/19	64.3 ▼ -0.7	▲ 14.2	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	2/13 ~ 2/19	62.4 ▼ -2.0	▲ 12.2
		(TOCOM/中部)	2/19	64.0 ▼ -0.8	▲ 13.7
	小売 [週動向] (資工庁公表)	2/19	88.2 ▲ 0.1	▲ 10.2	



■ 関連情報

1 海外/原油

2月21日のNYMEX市場WTI原油は、3連休による1日遅れの米エネルギー情報局(EIA)の週報発表を翌日に控え、米国内原油在庫の市場予想は前週比180万バレル増と4週連続で増加したこと、引き続き、米国内の原油増産が見込まれることから、米国内の供給過剰懸念が拡大し、5営業日振りに反落した。ただ、対ユーロでのドル高進行による原油先物の割高感、米国株価の反発に伴う投資家のリスク選好意識の回復もあり、下値は限定的だった。この日から中心限月に繰り上がった4月限の終値は前日比0.11ドル安の61.68ドル、5月限の終値は前日比0.04ドル安の61.52ドルだった。

EIAによると、2月19日時点のガソリンの小売価格は、前週比5.0セント値下がり1ガロン2.557ドル(72.4円/ℓ)となった。ディーゼルは前週比3.6セント値下がり3.027ドル(85.7円/ℓ)。ガソリンは2週連続の値下がり、ディーゼルは2週連続の値下がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、平成30年2月11日～2月17日に休止したトッパー能力は12.0万バレル/日で、前週に対して6.4万バレル/日減少した(全処理能力は351.9万バレル/日)。原油処理量は367.9万klと、前週に比べ3.7万kl増加。前年に対しては28.1万klの減少。トッパー稼働率は93.9%と前週に対して0.9ポイントの増加、前年に対しては変化なしとなった。

生産は前週に比べて灯油、軽油が増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/6.4%減、ジェット/21.4%減、灯油/16.1%増、軽油/4.8%増、A重油/0.6%減、C重油/0.3%減。今週のC重油の輸入は2.4万kl(前週比8.7万kl減)。軽油の輸出は20.3万kl(前週比6.0万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比ではガソリン、ジェット、灯油が減少となり、その他の油種で増加となった。前年比ではガソリン、軽油が増加となり、その他の油種で減少となった。ガソリンの出荷は92.9万kl(対前週1.2%減)と3週振りに前週比で減少、2週振りに前年比で増加となり、7週連続で100万klを下回った。ジェット2.2万kl(対前週82.0%減)、灯油53.5万kl(対

前週13.9%減)、軽油66.0万kl(対前週4.1%増)、A重油28.7万kl(対前週0.9%増)、C重油34.5万kl(対前週25.1%増)。

(単位:千KL)

	今週 (2/11 ~ 2/17)	前週 (2/4 ~ 2/10)	前週比	
ガソリン	929	940	▼ -11	(-1%)
ジェット燃料	22	121	▼ -99	(-82%)
灯油	535	621	▼ -86	(-14%)
軽油	660	634	▲ 26	(4%)
A重油	287	285	▲ 2	(1%)
C重油	345	276	▲ 69	(25%)
合計	2,778	2,877	▼ -99	(-3%)

※今週出荷量=(前週末在庫+今週生産+今週輸入)-(今週輸出+今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

2月17日時点の在庫は、すべての油種で取り崩しとなった。前年に対しても、すべての油種で取り崩しとなった。

ガソリンは163.6万kl、前週差8.6万kl減。前年に対しては22.7万kl少ない。

灯油は125.4万kl、前週差2.1万kl減。前年に対しては20.3万kl少ない。

軽油は124.1万kl、前週差7.6万kl減。前年に対しては42.3万kl少ない。

A重油は68.2万kl、前週差0.3万kl減。前年に対しては6.4万kl少ない。

C重油は187.5万kl、前週差6.1万kl減。前年に対しては3.2万kl少ない。

(単位:千KL)

	今週 (2/17)	前週 (2/10)	前週比	
ガソリン	1,636	1,722	▼ -86	(-5%)
ジェット燃料	724	737	▼ -13	(-2%)
灯油	1,254	1,275	▼ -21	(-2%)
軽油	1,241	1,317	▼ -76	(-6%)
A重油	682	685	▼ -3	(-0%)
C重油	1,875	1,936	▼ -61	(-3%)
合計	7,412	7,672	▼ -260	(-3.4%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

2月13日から2月19日の原油価格は、前週対比で値下がりし、為替レートも円高で、原油コストは値下がりしたと見られる。

陸上スポット価格は、2月13日～2月19日までの間、ガソリン112～114円台で値下がり、軽油60～61円台で値下がり、灯油64～65円台で値下がりし推移した。

海上スポット価格は、同期間で、ガソリン118～119円台で出入り激しく値上がり、軽油63～64円台で値下がり、灯油

71～73円台で値上がりし推移した。

先物価格は、同期間で、ガソリン108～109円台で出入り後わずかに値上がり、軽油60円台で横ばい、灯油62～63円台で出入り激しく値上がりし推移した。

元売の卸価格は、ガソリンは1.0～1.5円の値下げ、軽油は1.0円～1.5の値下げ、灯油は0.5～1.5円の値下げと各社分かれた。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

製品スポット市況は、先物軽油の横ばいを除き、全取引・全油種で値下がりした。

2月第4週(2月22日～2月28日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(2月13日～2月19日千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは1.8円の値下がり、灯油は0.7円の値下がり、軽油は1.2円の値下がりだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが0.7円の値下がり、灯油は0.2円の値下がり、軽油は1.8円の値下がりだった。先物価格は、ガソリンが2.4円の値下がり、灯油は2.0円の値下がり、軽油は横ばいだった。原油価格は値下がりし、為替も円高で、原油コストは値下がりした。

2月第4週の大手元売の卸価格は、ガソリンが1.0～1.5円の値下げ、軽油が1.0～1.5円の値下げ、灯油が0.5～1.5円の値下げとなった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM) (単位: 円/%)

陸上ローリー 4地区平均]	今週 (2/13 ~ 2/19)		前週 (2/6 ~ 2/12)		前週比
	今週	前週	今週	前週	
レギュラー	59.3	61.1	61.1	61.1	▼ -1.8
灯油	64.3	65.0	65.0	65.0	▼ -0.7
軽油	60.7	61.9	61.9	61.9	▼ -1.2

(TOCOM) (単位: 円/%)

[期近物/終値] [平均]	今週 (2/13 ~ 2/19)		前週 (2/6 ~ 2/12)		前週比
	今週	前週	今週	前週	
レギュラー	55.3	57.7	57.7	57.7	▼ -2.4
灯油	62.4	64.4	64.4	64.4	▼ -2.0
軽油	60.0	60.0	60.0	60.0	➡ 0.0

※上記価格は税抜き価格

参考値 (2/13～2/19実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -1.8	▼ -2.4	▼ -2.1
灯油	▼ -0.7	▼ -2.0	▼ -1.3
軽油	▼ -1.2	➡ 0.0	▼ -0.6
A重油	▼ -1.2		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

2月19日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.2円安の144.7円、軽油は同横ばいの122.9円、灯油は同0.1円高の88.2円だった。ガソリンは22週振りの値下がり、灯油は22週連続(18%ベース)の値上がりだった。都道府県別に、ガソリンの値上がりは6府県、横ばいは11府県、値下がり30都道府県だった。全国最安値は徳島県の139.1円(同0.6円安)、次が埼玉県の140.6円(同横ばい)、最高値は沖縄県の153.6円(同0.8円高)だった。最も値上がりしたのは、0.8円高の沖縄県(153.6円)だった。最も値下がりしたのは、0.9円安の山口県(143.7円)だった。

先週の原油コストは値下がりし、元売会社の卸価格は、ガソリンが2.5円の値下げ、軽油が1.5円の値下げ、灯油が1.0

～1.5円の値下げだったが、22週振りでガソリン小売価格は値下がりとなった。今週の原油価格は値下がりし、為替レートも円高で、原油コストは値下がりした。次週(2月26日)のガソリン・灯油の小売価格は値下がりか予想される。

(単位: 円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (2/19)	前週 (2/13)	前週比	直近高値
レギュラー	144.7	144.9	▼ -0.2	08/8/4 185.1
灯油	88.2	88.1	▲ 0.1	08/8/11 132.1
軽油	122.9	122.9	➡ 0.0	08/8/4 167.4

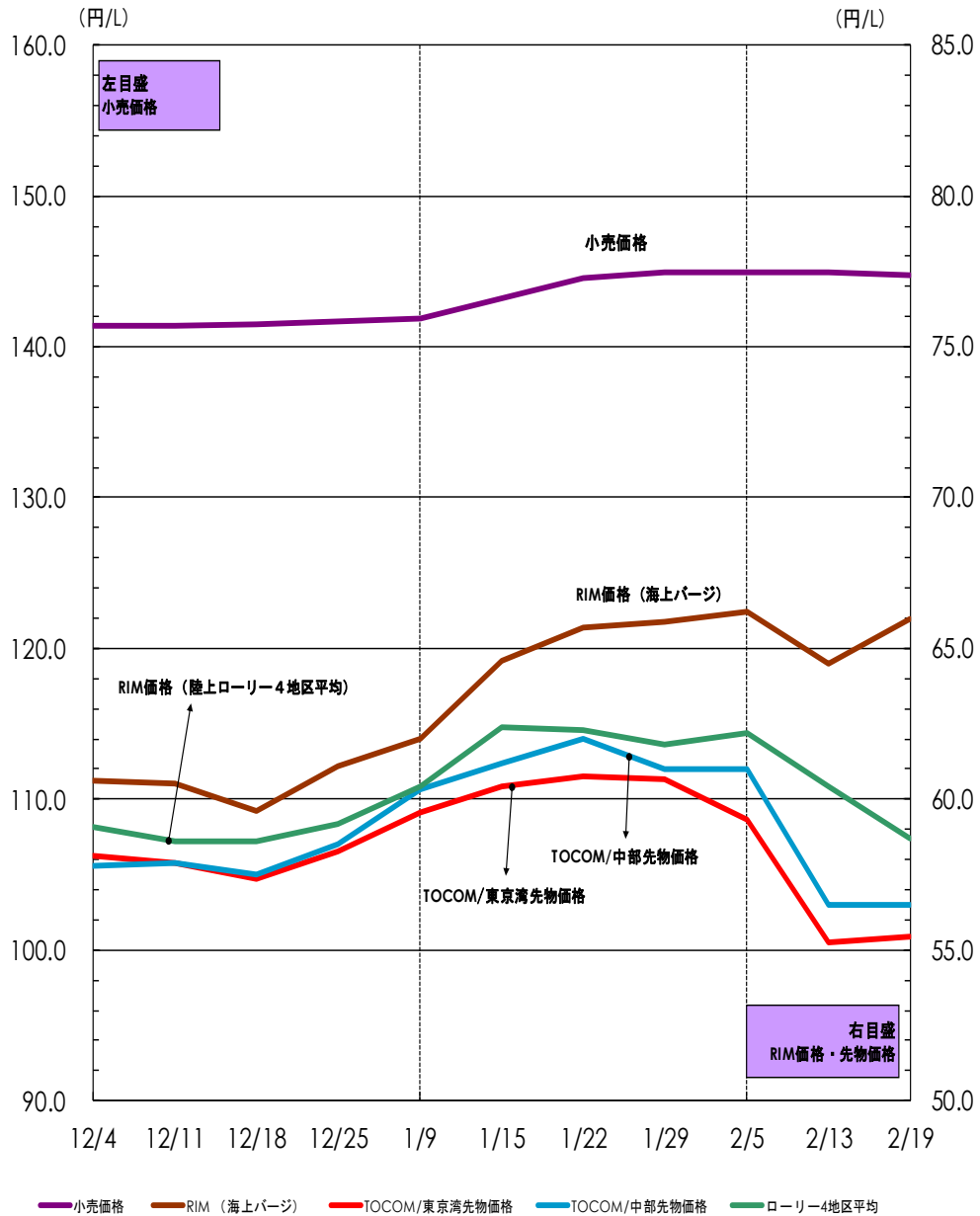
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2017/12/4 ~ 2018/2/19)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.iecej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2017第45号)の公表は、3/2(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成29年9月末現在)は、12月13日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。